



Cost Management Service 2022

Amazon Web Services (AWS) ソースの Cost Management への追加

AWS ソースの追加および設定方法について

Cost Management Service 2022 Amazon Web Services (AWS) ソースの Cost Management への追加

AWS ソースの追加および設定方法について

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Adding_an_Amazon_Web_Services_AWS_source_to_cost_management.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書では、Amazon Web Services (AWS) ソースを Cost Management に追加する方法を説明します。

目次

第1章 AMAZON WEB SERVICES (AWS) ソースの COST MANAGEMENT への追加	3
1.1. レポート用の S3 バケットの作成	3
1.2. COST MANAGEMENT の AWS タグのアクティブ化	4
1.3. コストと使用量の消費量の最小アカウントアクセスの有効化	4
1.3.1. コストと使用状況の消費のために追加のアカウントアクセスの有効化	6
1.4. AWS 請求プランの設定	7
第2章 コストを管理するための次のステップ	8
2.1. COST MANAGEMENT リソースへのアクセス制限	8
2.2. ソースへのタグ付けの設定	8
2.3. コストの正確な報告のためのコストモデルの設定	9
2.4. COST EXPLORER を使用したコストの可視化	9

第1章 AMAZON WEB SERVICES (AWS) ソースの COST MANAGEMENT への追加

AWS アカウントを Cost Management に追加するには、AWS アカウントを設定してメトリクスを提供するようにし、続いて AWS アカウントを Cost Management ユーザーインターフェースからソースとして追加する必要があります。



注記

Cost Management にソースを追加する前に、ソース管理者の権限を持つ Red Hat アカウントのユーザーが必要です。

AWS アカウントをソースとして追加すると、Cost Management で1時間ごとにコスト情報を収集するために AWS への読み取り専用接続が作成されますが、AWS アカウントは変更されません。

AWS アカウントをデータソースとして Cost Management に追加する前に、AWS アカウントで次のサービスを設定して、Cost Management がメトリックにアクセスできるようにする必要があります。

1. Cost Management のコストおよび使用状況データレポートを保存する S3 バケット
2. コストと使用状況データを処理する Cost Management 向けの Identity Access Management (IAM) ポリシーおよびロール

AWSコンソールで次の手順のいくつかと Cost Management ユーザーインターフェースでいくつかの手順を完了するため、両方のアプリケーションを Web ブラウザーで開いたままにします。

<https://cloud.redhat.com/settings/sources/> の設定領域から AWS ソースを Cost Management に追加します。



注記

Red Hat 以外の製品およびドキュメントは、予告なしに変更される可能性があります。本ガイドに記載のサードパーティーソースの設定手順は、一般的であり、公開時点で正しいものです。最新の正確な情報は、[AWS ドキュメント](#) を参照してください。

1.1. レポート用の S3 バケットの作成

Cost Management には、請求レポートを格納するように設定されたパーミッションを持つ Amazon S3 バケットが必要です。

AWS アカウントにログインし、コストと使用状況のレポートの設定を開始します。

1. AWS S3 コンソールで、新規の S3 バケットを作成するか、または既存バケットを使用します。新しい S3 バケットを設定する場合は、デフォルト設定を受け入れます。
2. AWS Billing コンソールで、S3 バケットに配信される Cost and Usage Report を作成します。以下の値を指定します (そして他の値のデフォルト値を受け入れます)。
 - レポート名: <any-name> (後で使用するため、この名前を覚えておきます)
 - 追加のレポートの詳細: リソース ID を含める
 - S3 バケット: <以前に設定した S3 バケット>

- 時間の粒度: 1時間ごと
- Amazon Redshift, Amazon QuickSight のレポートデータ統合を有効化する (Amazon Athena のレポートデータ統合は有効化しないでください)
- 圧縮タイプ: GZIP
- レポートプレフィックス: コスト



注記

設定についての詳細は、**Billing and Cost Management**のドキュメントを参照してください。

3. console.redhat.com プラットフォームで **Sources** メニュー (<https://console.redhat.com/settings/sources>)を開き、AWS ソースを Cost Management に追加します。
 - a. **Sources** に移動し、**Add a source** をクリックして Sources ウィザードを開きます。
 - b. ソースの名前を入力し、**Next** をクリックします。
 - c. アプリケーションとして **cost management** を、ソースタイプとして **Amazon Web Services (AWS)** を選択します。**Next** をクリックします。
 - d. S3 バケットの名前を貼り付け、**Next** をクリックします。

1.2. COST MANAGEMENT の AWS タグのアクティブ化

タグを使用して Cost Management アプリケーションで AWS リソースを整理するには、AWS でタグをアクティベートしてそれらを自動的にインポートできるようにします。

手順

1. AWS Billing コンソールで、以下を実行します。
 - a. **Cost Allocation Tags** セクションを開きます。
 - b. Cost Management アプリケーションで使用するタグを選択し、**Activate** をクリックします。
2. cloud.redhat.com Sources ウィザードで、**Next** をクリックし、次の画面に移動します。

1.3. コストと使用量の消費量の最小アカウントアクセスの有効化

Web インターフェースおよび API 内でデータを提供するには、Cost Management が AWS によって生成される Cost and Usage Report を使用する必要があります。Cost Management が最小限のアクセスでこのデータを取得するには、Cost Management が使用する IAM ポリシーおよびロールを作成します。この設定では、保存されている情報へのアクセスのみが提供されます。

手順

1. AWS Identity and Access Management (IAM) コンソールから、以前に設定した S3 バケットの新しい IAM ポリシーを作成します。

- a. JSON タブを選択し、JSON ポリシーテキストボックスに以下の内容を貼り付けます。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "s3:Get*",
        "s3:List*"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:s3:::bucket_name",
        "arn:aws:s3:::bucket_name/*"
      ]
    },
    {
      "Sid": "VisualEditor1",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "s3:ListBucket",
        "cur:DescribeReportDefinitions"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

- a. ポリシーの名前を指定して、ポリシーの作成を完了します。次の手順に必要なため、AWS IAM コンソールを開いたままにします。
1. [cloud.redhat.com Sources](https://cloud.redhat.com/sources) ウィザードで、**Next** をクリックし、次の画面に移動します。
 2. AWS IAM コンソールで、新規の IAM ロールを作成します。
- b. 信頼されるエンティティのタイプについては、別の AWS アカウントを選択します。
- c. 589173575009 を Account ID として入力し、Cost Management アプリケーションに AWS アカウントのコストデータへの読み取りアクセスを提供します。
- d. 設定したばかりの IAM ポリシーを割り当てます。
- e. ロール名 (および必要な場合は説明) を入力し、ポリシーの作成を終了します。
1. [cloud.redhat.com Sources](https://cloud.redhat.com/sources) ウィザードで、**Next** をクリックし、次の画面に移動します。
 2. Roles の下にある AWS IAM コンソールで、作成したばかりのロールのサマリー画面を開き、Role ARN (arn:aws: で始まる文字列) をコピーします。
 3. [cloud.redhat.com Sources](https://cloud.redhat.com/sources) ウィザードで、Role ARN を貼り付け、**Next** をクリックします。
 4. 詳細を確認し、**Finish** をクリックして AWS アカウントを Cost Management に追加します。

Cost Management は、AWS アカウントおよびリンクされた AWS アカウントからコストおよび使用データの収集を開始します。

データは、Cost Management ダッシュボード (console.redhat.com/openshift/cost-management/) に表示されるまでに数日かかることがあります。

1.3.1. コストと使用状況の消費のために追加のアカウントアクセスの有効化

Cost Management では、役立つ可能性のある追加データを表示できます。以下は例になります。

- Action `iam:ListAccountAliases` を追加して、Cost Management にアカウント番号ではなく AWS アカウントエイリアスを表示します。
- アカウント ID ではなく統合請求機能を使用している場合は、`organization:List*` および `organizations:Describe*` を追加して、AWS メンバーアカウントの表示名を取得します。

以下の設定では、追加の保存されている情報へのアクセスのみが提供されます。

手順

1. AWS Identity and Access Management (IAM) コンソールから、以前に設定した S3 バケットの新しい IAM ポリシーを作成します。
2. JSON タブを選択し、JSON ポリシーテキストボックスに以下の内容を貼り付けます。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "s3:Get*",
        "s3:List*"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:s3:::bucket",
        "arn:aws:s3:::bucket/*"
      ]
    },
    {
      "Sid": "VisualEditor1",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:ListAccountAliases",
        "s3:ListBucket",
        "cur:DescribeReportDefinitions",
        "organizations:List*",
        "organizations:Describe*"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

残りの設定手順は「[コストと使用量の消費量の最小アカウントアクセスの有効化](#)」と同じです。

1.4. AWS 請求プランの設定

デフォルトでは、Cost Management は、その日付の使用コストに応じて AWS コストを計算します。AWS で、償却での課金またはブレンドレートなどの特別な課金体系をご利用の場合に、このような計算は、[Cost Management 設定](#) のページで設定できます。これにより、コストレポートが AWS の請求をより正確に反映できるようになります。

AWS の請求についての詳細は、AWS ドキュメントの [Understanding Consolidated Bills](#) を参照してください。

Cost Management は、AWS の請求計画に対応するための 3 つのコスト計算オプションをサポートします。

Unblended (デフォルト)

その日の費用は、使用コストに応じて計算されます。

Amortized

定期費用と初期費用は、請求期間全体で均等に分散されます。

blended

費用は AWS のブレンドレートに従って計算されます。

この手順では、コスト計算をデフォルトの **Unblended** から **Amortized** または **Blended** に設定する方法を説明します。

前提条件

- AWS ソースが Cost Management に追加される。
- 組織管理者として console.redhat.com にアクセスする。

手順

1. console.redhat.com から、[Cost Management 設定](#) ページに移動します。
2. **Show cost as** で **Amortized** または **Blended** を選択します。
3. **保存** をクリックします。

第2章 コストを管理するための次のステップ

OpenShift Container Platform および Amazon Web Services ソースを追加した後に、Cost Management は、ソースでコストデータを表示するだけでなく、プラットフォーム上で OpenShift Container Platform クラスターの実行に関連する AWS コストと使用状況を自動的に表示します。

Cost Management **Overview** ページ (cloud.redhat.com/openshift/cost-management/) では、コストデータは **OpenShift** および **Infrastructure** タブに分類されます。ここから、**Perspective** を使用して、コストデータのさまざまなビューを選択できます。

左側のナビゲーションメニューを使用して、サービス別のコストの追加情報を表示することもできます。

関連情報

- [Cost Management への OpenShift Container Platform ソースの追加](#)
- [Cost Management への Google Cloud ソースの追加](#)
- [Microsoft Azure ソースの Cost Management への追加](#)

2.1. COST MANAGEMENT リソースへのアクセス制限

Cost Management にソースを追加および設定したら、コストデータおよびリソースへのアクセスを制限することが推奨されます。たとえば、ユーザーがすべてのコストデータにアクセスできるようにするのではなく、プロジェクトまたは組織に固有のデータのみアクセスできるようにすることができます。ロールベースのアクセス制御を使用すると、Cost Management レポートに含まれるリソースの可視性を制限できます。たとえば、ユーザービューを環境全体ではなく AWS ソースのみに制限することができます。

アクセスの制限の詳細は、[Limiting access to cost management resources](#)を参照してください。

2.2. ソースへのタグ付けの設定

Cost Management アプリケーションは、タグ (OpenShift ではラベルと呼ばれる) を使用してクラウドおよびインフラストラクチャーコストを追跡します。タグを調整して、リソースにフィルターをかけ、属性を付けることができます。Cost Management のタグを使用すると、コストごとにリソースを整理し、コストをクラウドインフラストラクチャーの異なる部分に割り当てることができます。



重要

タグとラベルは、ソースで直接設定することしかできません。Cost Management でアクティブ化されるタグを選択できますが、Cost Management アプリケーションでタグとラベルを編集することはできません。

以下の詳細は、[Managing cost data using tagging](#)を参照してください。

- コストデータの表示を整理するためのタグ付け戦略を計画する。
- Cost Management がタグを関連付ける方法を理解する。
- ソースにタグおよびラベルを設定する。

2.3. コストの正確な報告のためのコストモデルの設定

コストと使用状況のデータを Cost Management に収集するようにソースを設定したら、コストモデルを設定して価格をメトリックと使用状況に関連付け、クラウドを実行するコストを微調整できます。

コストモデルは、生のコストとメトリクスを使用して、Cost Management に保存されているコストの計算を定義するために使用されるフレームワークです。コストモデルが生成するコストは、記録、分類、および特定の顧客、ビジネスユニット、またはプロジェクトに配布できます。

Cost Management の [コストモデル](#) エリアから、以下のことができます。

- インフラストラクチャーまたは補足コストとしてコストを分類します。
- OpenShift ノードおよびクラスターの月額コストを取得します。
- 追加のサポートコストを考慮してマークアップを適用します。
- コストモデルを設定する方法の詳細は、[Using cost models](#) を参照してください。

2.4. COST EXPLORER を使用したコストの可視化

Cost Management の [Cost Explorer](#) では、時間軸に沿ったコストと使用情報のカスタムグラフを作成し、コストをより可視化し解釈することができます。

以下の詳細は、[Visualizing your costs using Cost Explorer](#) を参照してください。

- Cost Explorer を使用して異常なイベントを特定する。
- 時間の経過とともにコストデータがどのように変化するかを理解する。
- コストと使用状況データのカスタムバーチャートを作成する。
- カスタムコストデータテーブルをエクスポートする。